

超低消費電流/低飽和型レギュレータ

NO.JA-110-111027

■ 概要

R1180xシリーズは低ON抵抗 $r_{DS(on)}$ 内蔵による抵入力電圧差特性に加え、CMOSプロセスにより、出力電流150mAながらTYP.1 μ Aという超低消費電流を実現したボルテージレギュレータICです。

出力電圧はIC内で固定されており、基準電圧源、誤差増幅器、出力電圧設定用抵抗網、過電流による破壊防止のための出力電流制限回路などから構成されています。

また、スタンバイ端子により超低消費電流のスタンバイモードが実現できます。

パッケージはR1180Qシリーズでは超小型のSC-82AB(スーパーミニモールド)、R1180NシリーズではSOT-23-5、R1180DシリーズではSON1612-6に実装することにより、高密度実装を狙った製品となっています。

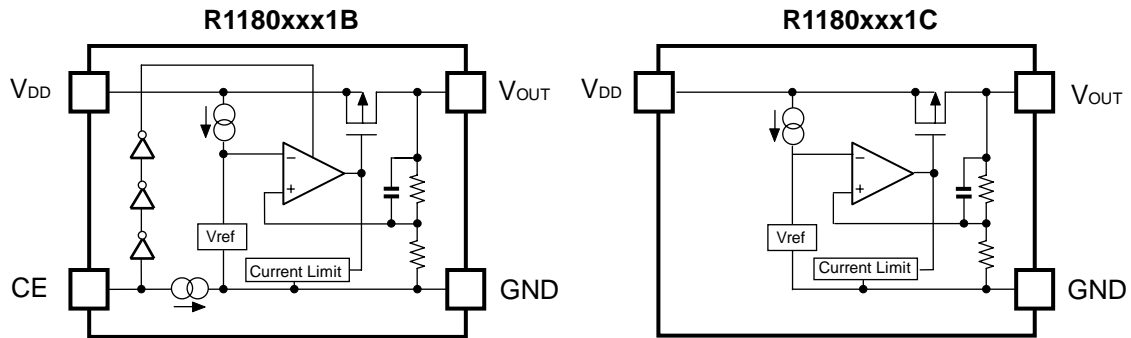
■ 特長

- 低消費電流.....TYP. 1 μ A (CEプルダウン回路に流れる電流は除く)
- 低消費電流(スタンバイ時).....TYP. 0.1 μ A
- 入出力電圧差.....TYP. 0.25V($I_{OUT}=150$ mA, $V_{OUT}=3.0$ V)
- 出力電圧の温度係数.....TYP. ± 100 ppm/ $^{\circ}$ C
- 入力安定度.....TYP. 0.05%/V
- 出力電圧精度..... ± 2.0 %
- 出力電圧範囲.....1.2V~3.6V (0.1V単位)
*その他の電圧はマーキング情報をご参照ください。
- 低入力電圧に対応.....MIN.1.7V
- パッケージ.....SON1612-6、SC-82AB、SOT-23-5
- 短絡電流制限回路内蔵.....TYP. 40mA
- 過電流保護回路内蔵
- セラミックコンデンサ対応.....0.1 μ F以上

■ アプリケーション

- バッテリー使用機器の定電圧電源
- カメラ、ビデオ、携帯用通信機器の定電圧電源
- 高安定基準電圧源

■ ブロック図



■ セレクションガイド

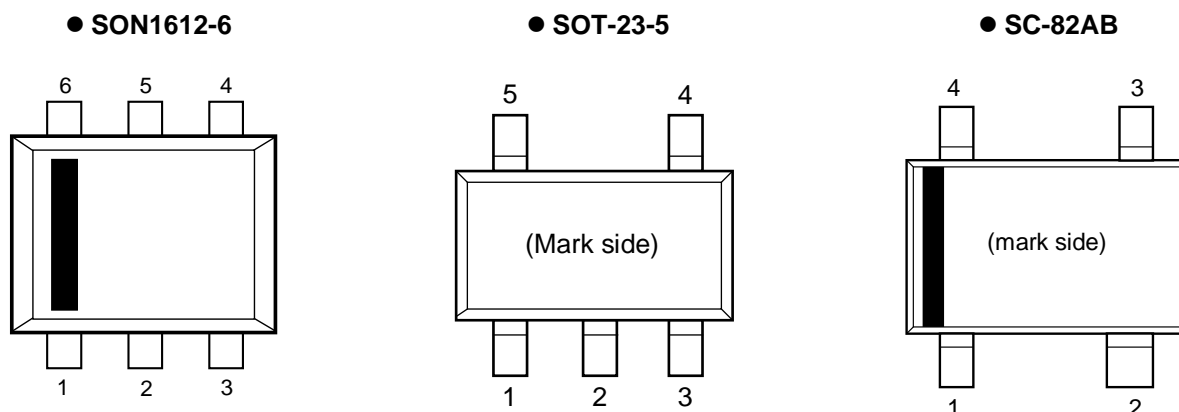
R1180xシリーズは、出力電圧、CE端子の極性、パッケージ等を用途によって選択指定することができます。

製品名	パッケージ	1 リール個数	鉛フリー	ハロゲンフリー
R1180Dxx1*-TR-FE	SON1612-6	4,000pcs	○	○
R1180Qxx1*-TR-FE	SC-82AB	3,000pcs	○	○
R1180Nxx1*-TR-FE	SOT-23-5	3,000pcs	○	○

xx : 出力電圧を 1.2V (12) ~3.6V (36) まで、0.1V 単位で指定
(その他の電圧はマーキング情報をご参照ください。)

* : CE 端子の極性を下記から選択
(B) "H"アクティブ
(C) チップイネーブルなし

■ 端子接続図



■ 端子説明

● SON1612-6

端子番号	端子名	機能
1	V _{DD}	入力端子
2	GND	グラウンド端子
3	V _{OUT}	出力端子
4	NC	ノーコネクション
5	GND	グラウンド端子
6	CE or NC	チップイネーブル端子 or ノーコネクション

● SC-82AB

端子番号	端子名	機能
1	CE or NC	チップイネーブル端子 or ノーコネクション
2	GND	グラウンド端子
3	V _{OUT}	出力端子
4	V _{DD}	入力端子

● SOT-23-5

端子番号	端子名	機能
1	V _{DD}	入力端子
2	GND	グラウンド端子
3	CE or NC	チップイネーブル端子 or ノーコネクション
4	NC	ノーコネクション
5	V _{OUT}	出力端子

■ 絶対最大定格

記号	項目	定格	単位
V_{IN}	入力電圧	6.5	V
V_{CE}	入力電圧 (CE 端子)	6.5	V
V_{OUT}	出力電圧	$-0.3 \sim V_{IN} + 0.3$	V
I_{OUT}	出力電流	180	mA
P_D	許容損失(標準基板実装) (SON1612-6)*	500	mW
	許容損失(標準基板実装) (SC-82AB)*	380	
	許容損失(標準基板実装)(SOT23-5)*	420	
T_{opt}	動作周囲温度	$-40 \sim 85$	$^{\circ}C$
T_{stg}	保存周囲温度	$-55 \sim 125$	$^{\circ}C$

*) 許容損失、標準実装条件については、パッケージ情報に詳しく記述していますのでご参照ください。

絶対最大定格

絶対最大定格に記載された値を超えた条件下に置くことはデバイスに永久的な破壊をもたらすことがあるばかりか、デバイス及びそれを使用している機器の信頼性及び安全性に悪影響をもたらします。絶対最大定格値でデバイスが機能動作をすることは保証していません。

動作定格（電気的特性）について

半導体が使用される応用電子機器は半導体がその動作定格範囲で動作するように設計する必要があります。ノイズ、サージといえどもその範囲を超えると半導体の正常な動作は期待できなくなります。また動作定格の範囲外で動作させ続けた場合は、その半導体が本来持っている信頼性を維持できなくなります。

■ 電気的特性

R1180xxx1B/C

(T_{opt}=25°C)

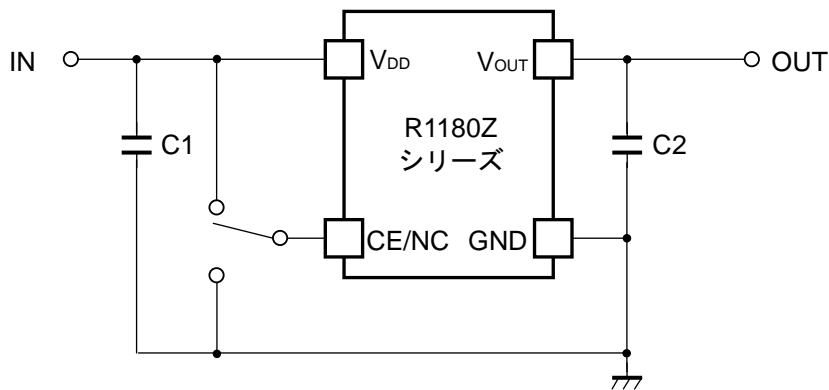
記号	項目	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
V _{OUT}	出力電圧	V _{IN} -V _{OUT} =1.0V 1μA ≤ I _{OUT} ≤ 30mA	×0.98		×1.02	V
I _{OUT}	出力電流	V _{IN} -V _{OUT} =1.0V (V _{OUT} ≥ 1.5V) V _{IN} =2.4V (V _{OUT} < 1.5V)	150			mA
ΔV _{OUT} /ΔI _{OUT}	負荷安定度	V _{IN} -V _{OUT} =1.0V (V _{OUT} ≥ 1.5V) V _{IN} =2.4V (V _{OUT} < 1.5V) 1μA ≤ I _{OUT} ≤ 150mA		20	40	mV
V _{DIF}	入出力電圧差	出力電圧別電気的特性参照				
I _{SS}	消費電流	V _{IN} -V _{OUT} =1.0V, I _{OUT} =0mA		1.0	1.5	μA
I _{standby}	消費電流 (スタンバイ時)	V _{IN} -V _{OUT} =1.0V, V _{CE} =GND		0.1	1.0	μA
ΔV _{OUT} /ΔV _{IN}	入力安定度	I _{OUT} =30mA V _{OUT} +0.5V ≤ V _{IN} ≤ 6.0V (V _{OUT} ≥ 1.5V) 2.0V ≤ V _{IN} ≤ 6.0V (1.2V ≤ V _{OUT} ≤ 1.4V)		0.05	0.20	%/V
V _{IN}	入力電圧		1.7		6.0	V
ΔV _{OUT} /ΔT _{opt}	出力電圧温度係数	I _{OUT} =30mA -40°C ≤ T _{opt} ≤ 85°C		±100		ppm/°C
I _{SC}	短絡電流	V _{OUT} =0V		40		mA
I _{PD}	CE プルダウン定電流	(R1180Xxx1Bのみ)		0.35		μA
V _{CEH}	CE 入力電圧 "H"	(R1180Xxx1Bのみ)	1.2		6.0	V
V _{CEL}	CE 入力電圧 "L"	(R1180Xxx1Bのみ)	0		0.3	V

● 出力電圧別電気的特性

(T_{opt}=25°C)

出力電圧 V _{OUT} (V)	入出力電圧差 V _{DIF} (V)		
	条件	TYP.	MAX.
1.2 ≤ V _{OUT} < 1.3	I _{OUT} =150mA	0.85	1.20
1.3 ≤ V _{OUT} < 1.4		0.75	1.10
1.4 ≤ V _{OUT} < 1.5		0.65	1.00
1.5 ≤ V _{OUT} < 1.7		0.60	0.90
1.7 ≤ V _{OUT} < 1.9		0.50	0.75
1.9 ≤ V _{OUT} < 2.1		0.40	0.65
2.1 ≤ V _{OUT} < 2.8		0.35	0.55
2.8 ≤ V _{OUT} ≤ 3.6		0.25	0.40

■ 基本回路例



外付け部品参考例

出力コンデンサ

セラミックコンデンサ 0.1 μ F

■ 外付け部品に関する注意点

● 位相補償について

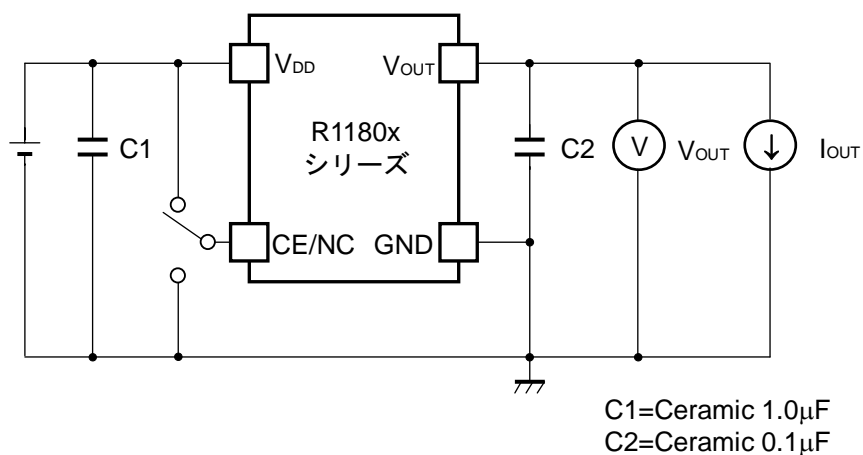
本ICは、出力負荷が変化しても安定に動作させるために、出力コンデンサを位相補償に利用しています。

このためコンデンサC2として0.1 μ F以上を必ず入れて下さい。なお、タンタルコンデンサを使用する場合、直列等価抵抗(ESR)の値が大きいと、出力が発振する可能性がありますので、周波数特性を含めて充分評価して下さい。

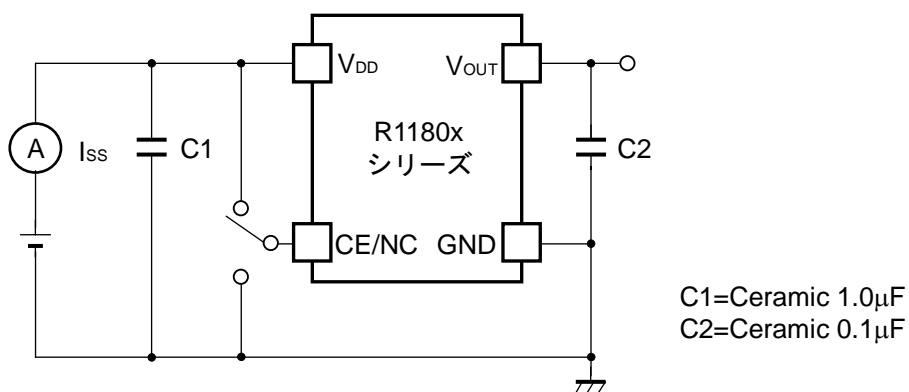
● 基盤実装について

V_{DD} 、および、GND配線は、電流が流れるため配線のインピーダンスが高いとノイズのまわり込みや動作が不安定になる原因になるので充分強化して下さい。また、 V_{DD} 端子-GND端子間に0.1 μ F程度以上のコンデンサをC1にできるだけ配線が短くなるように付けて下さい。さらに、位相補償用の出力側コンデンサC2については V_{OUT} 端子と電源GND間にできるだけ配線が短くなるように付けて下さい。(基本回路例参照)

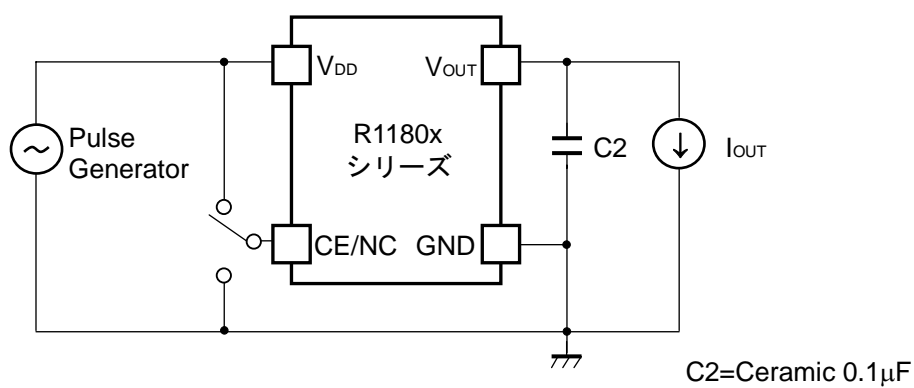
■ 測定回路



基本測定回路



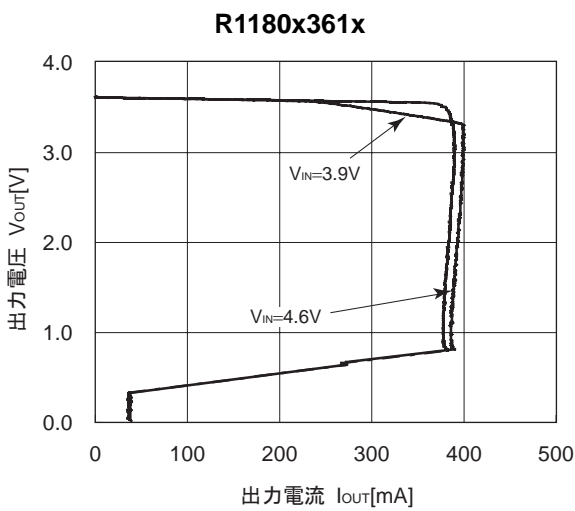
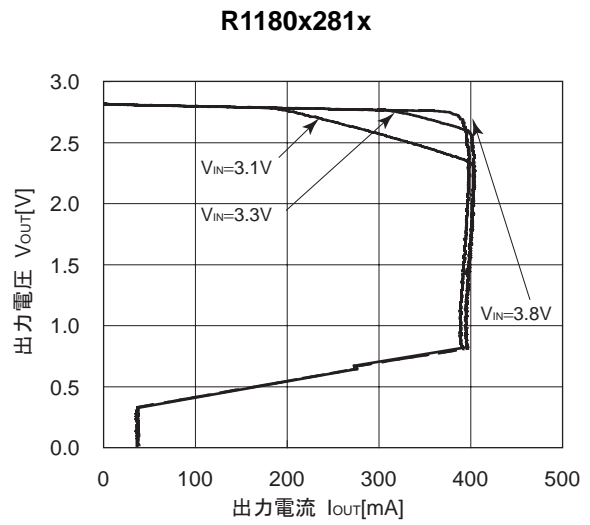
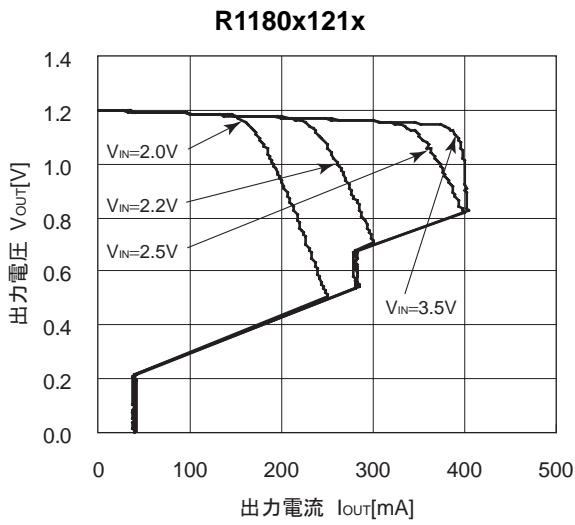
消費電流測定回路



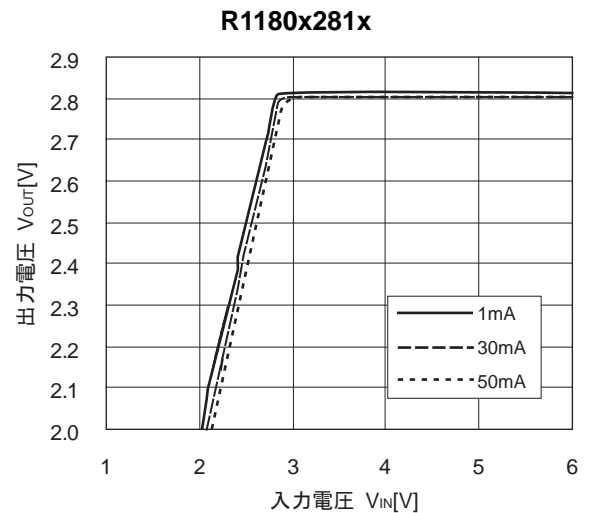
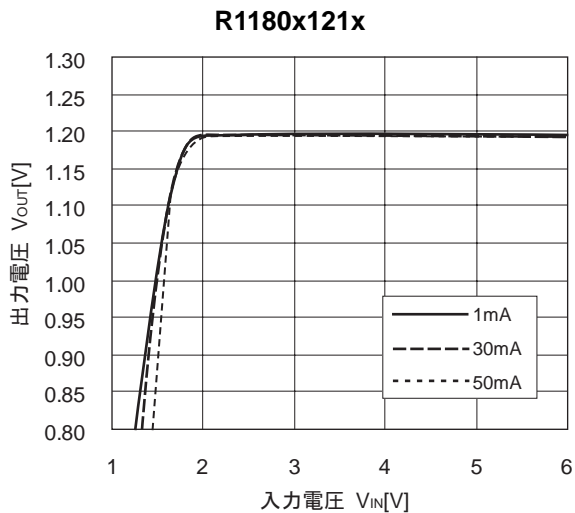
リップル除去率、入力過渡応答測定回路

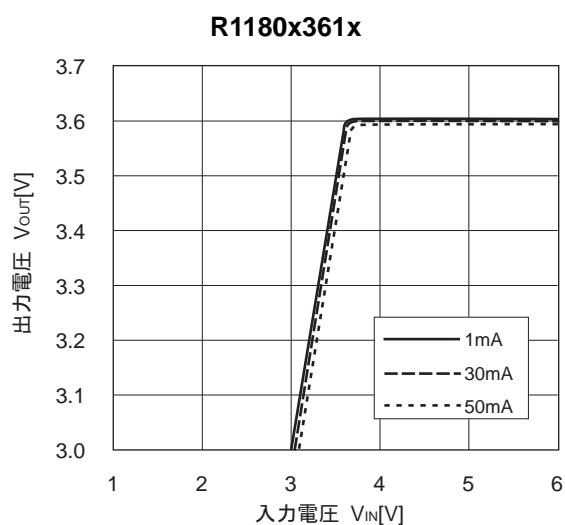
■ 特性例

1) 出力電圧対出力電流特性例 (Topt=25°C)

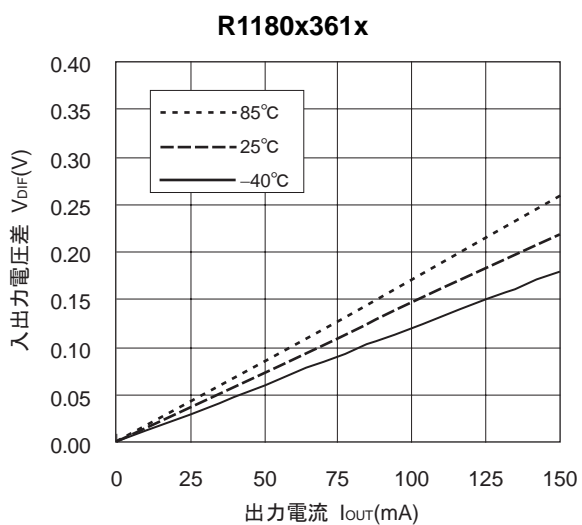
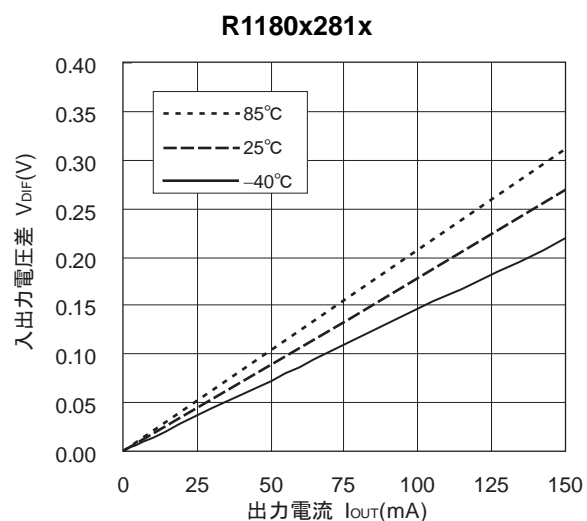
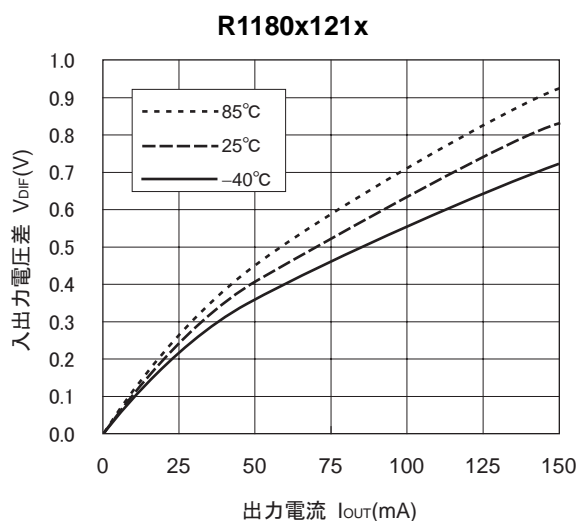


2) 出力電圧対入力電圧特性例 (Topt=25°C)

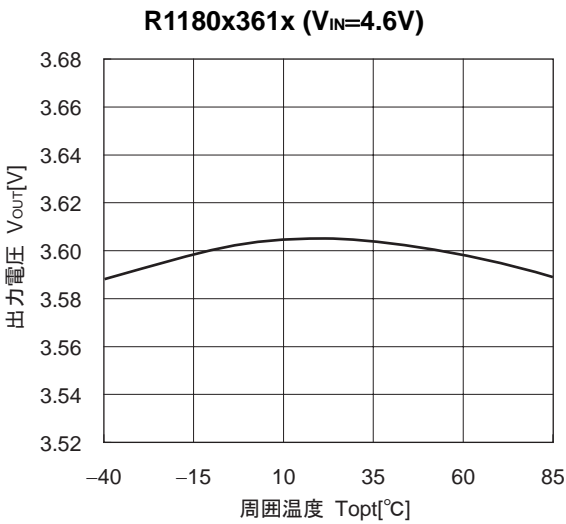
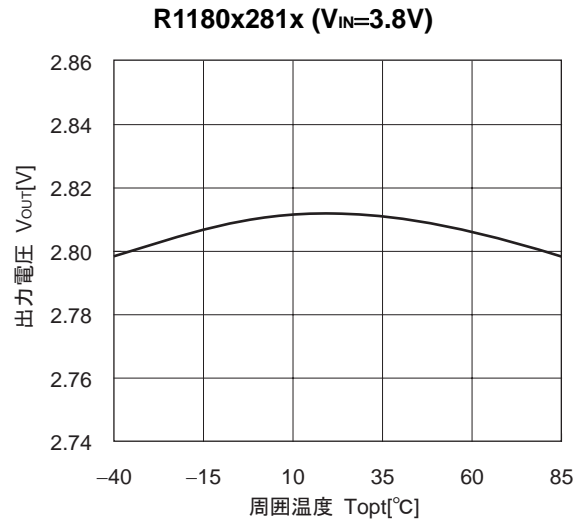
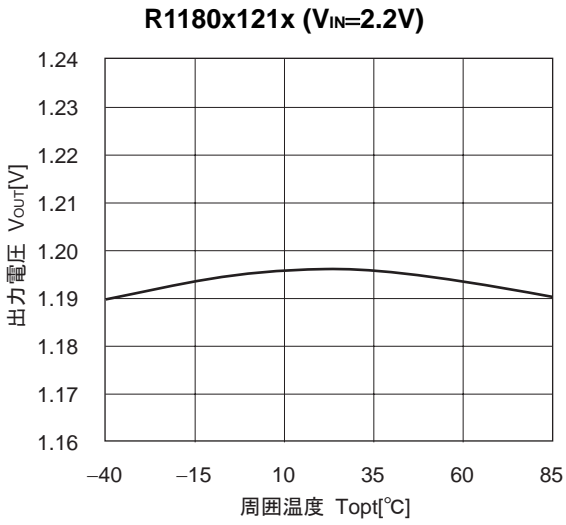




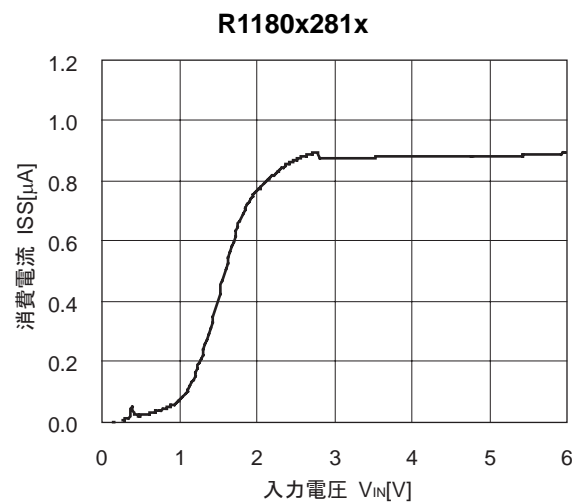
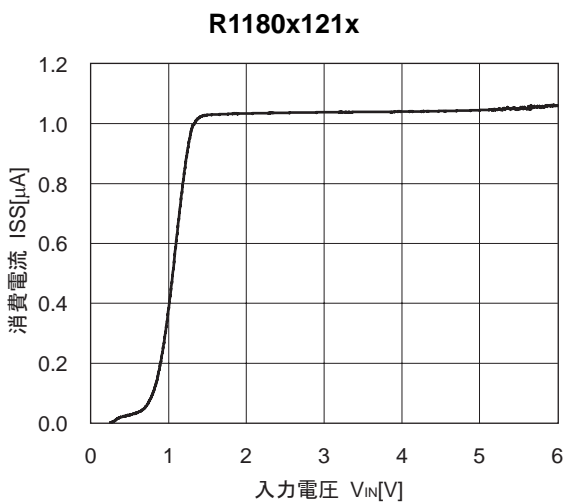
3) 入出力電圧差対出力電流特性例

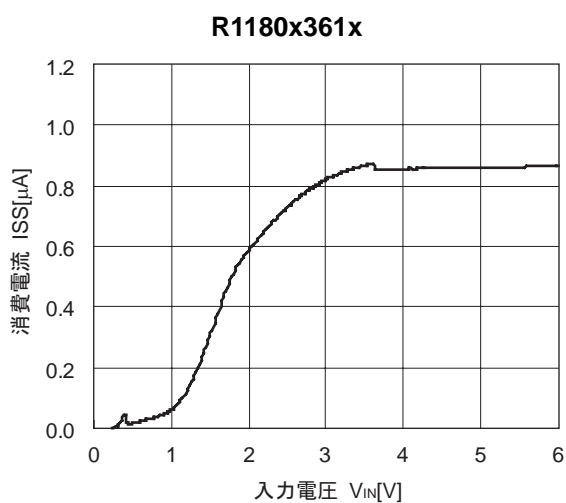


4) 出力電圧对周围温度特性例 ($I_{OUT}=30mA$)

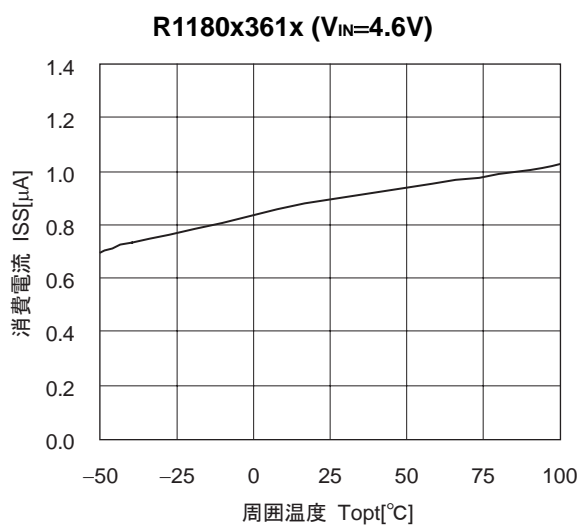
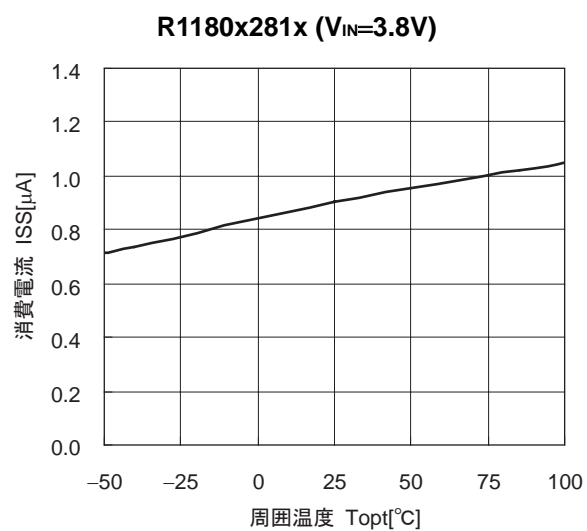
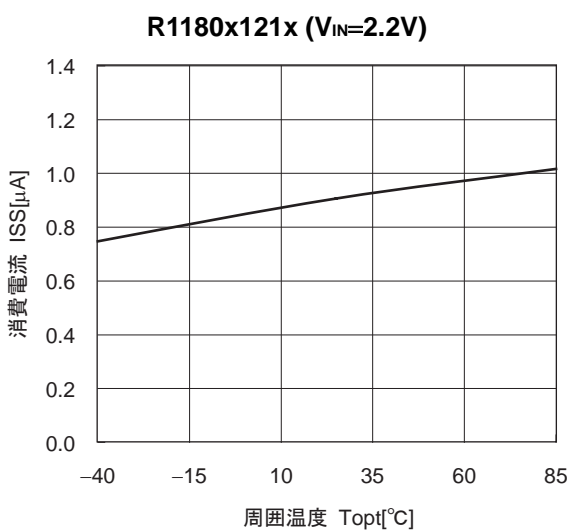


5) 消費電流对入力電圧特性例 ($T_{opt}=25^{\circ}C$)

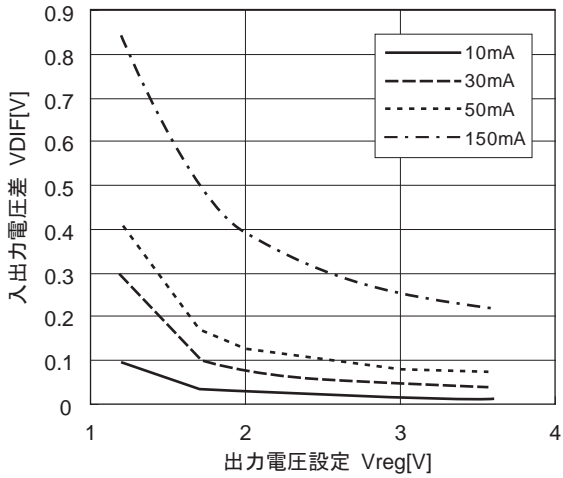




6) 消費電流对周围温度特性例

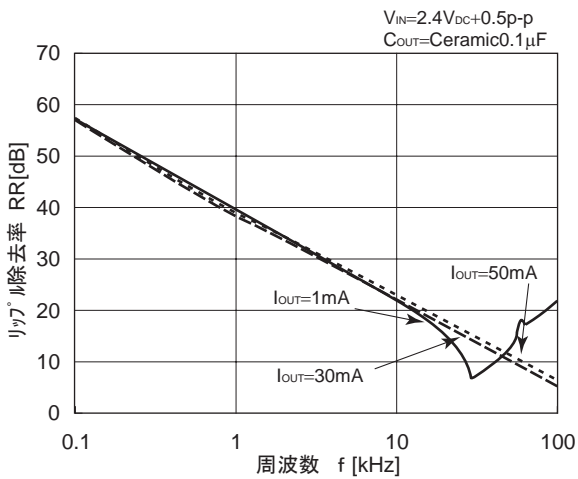


7) 入出力電圧差対出力電圧特性例 (Topt=25°C)

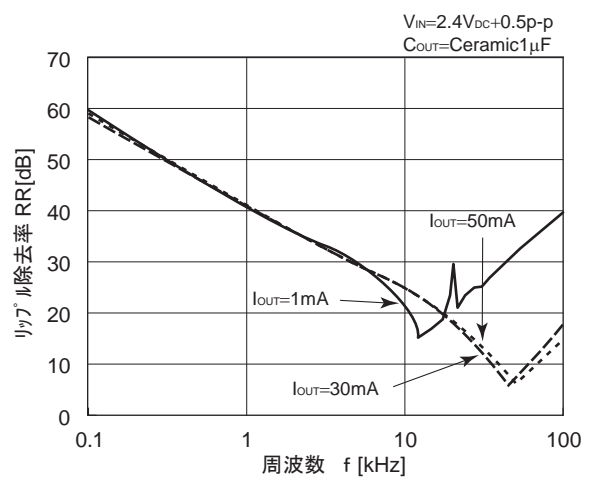


8) リップル除去率対周波数特性例 (CIN= none)

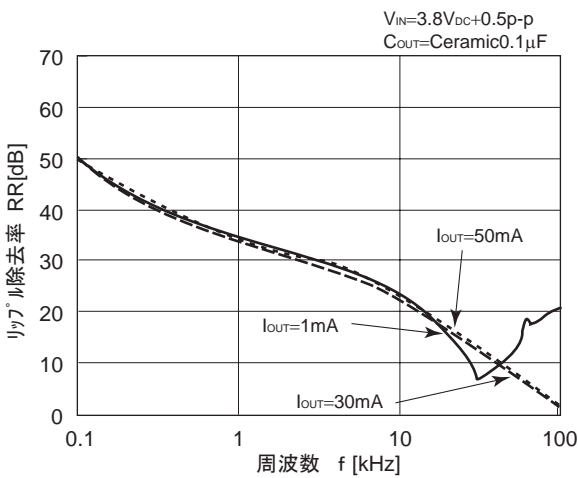
R1180x121x



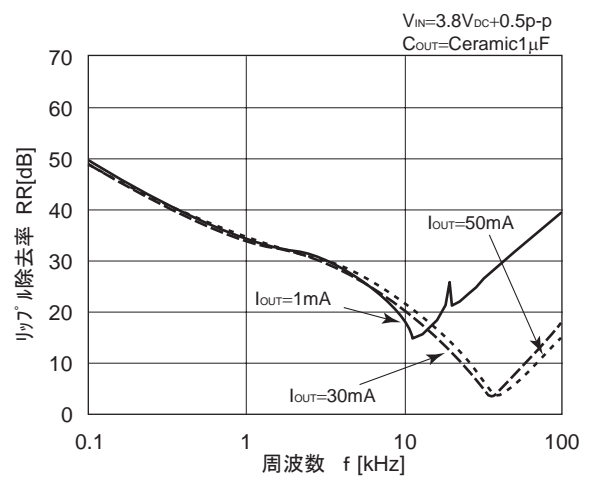
R1180x121x

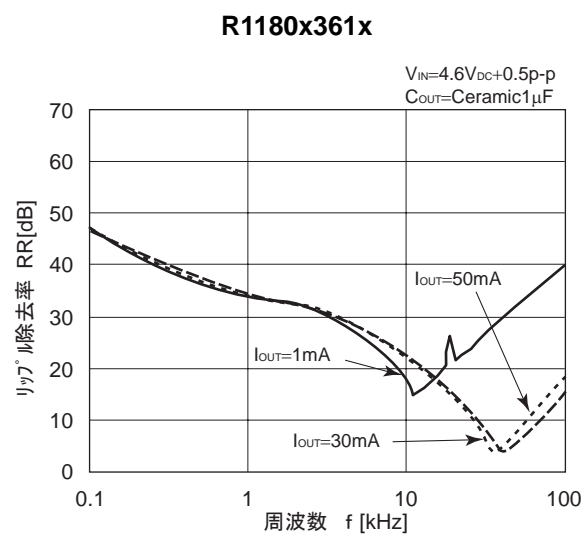
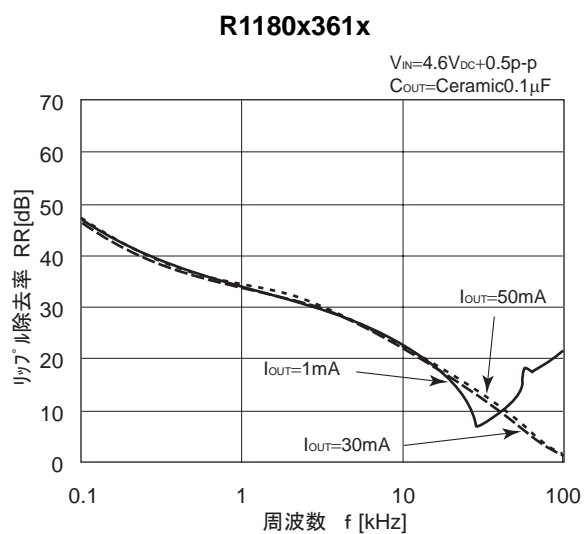


R1180x281x



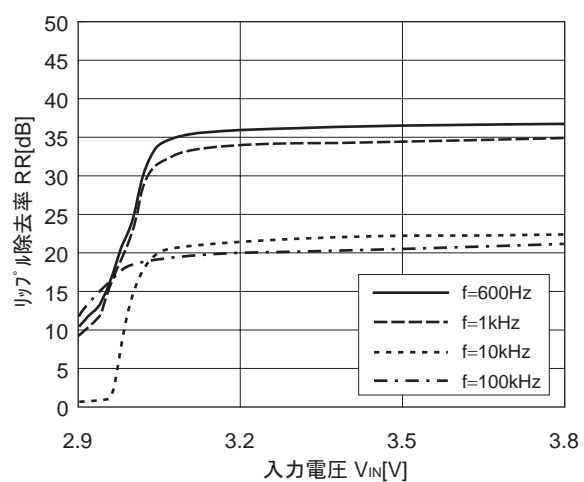
R1180x281x



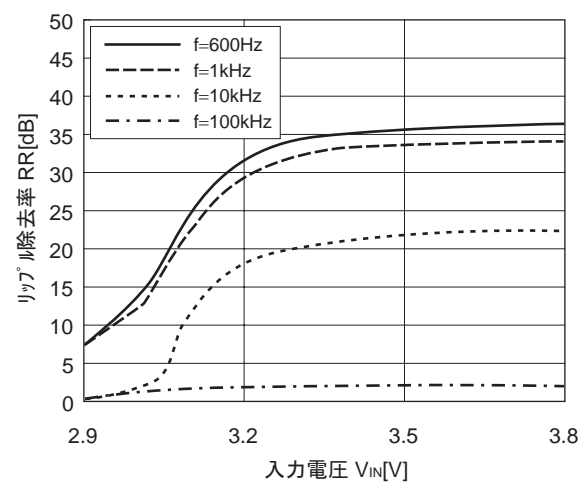


9) リップル除去率対入カバイアス電圧特性例 ($T_{opt}=25^{\circ}C$, $C_{IN}=\text{none}$, $C_{OUT}=\text{Ceramic}0.1\mu F$)

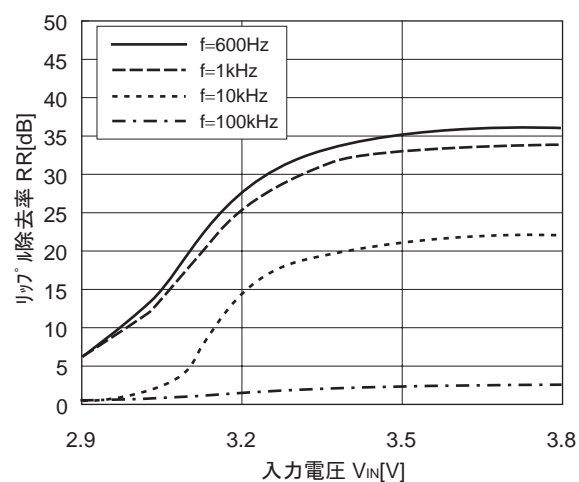
R1180x281x($I_{OUT}=1mA$)



R1180x281x($I_{OUT}=30mA$)

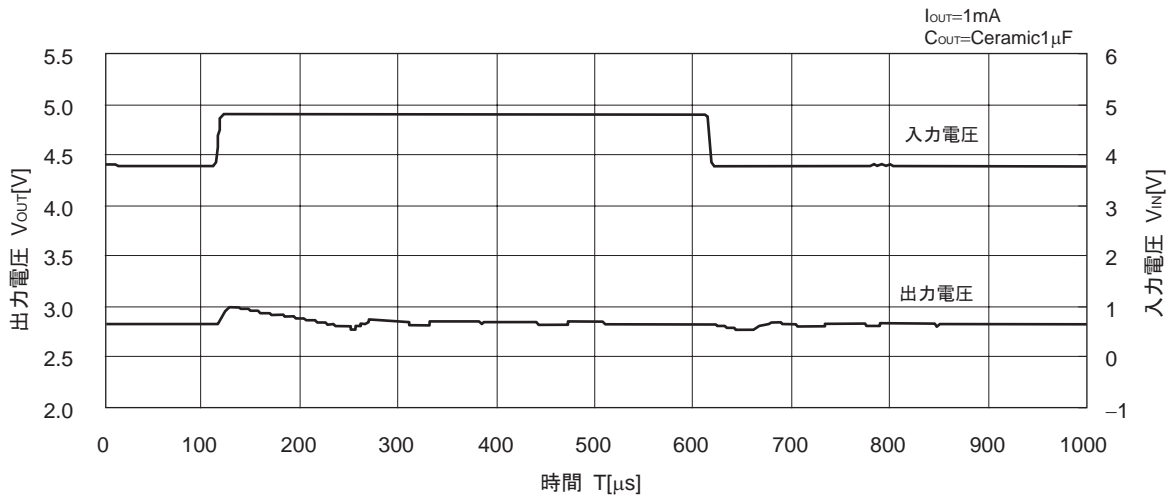


R1180x281x($I_{OUT}=50mA$)

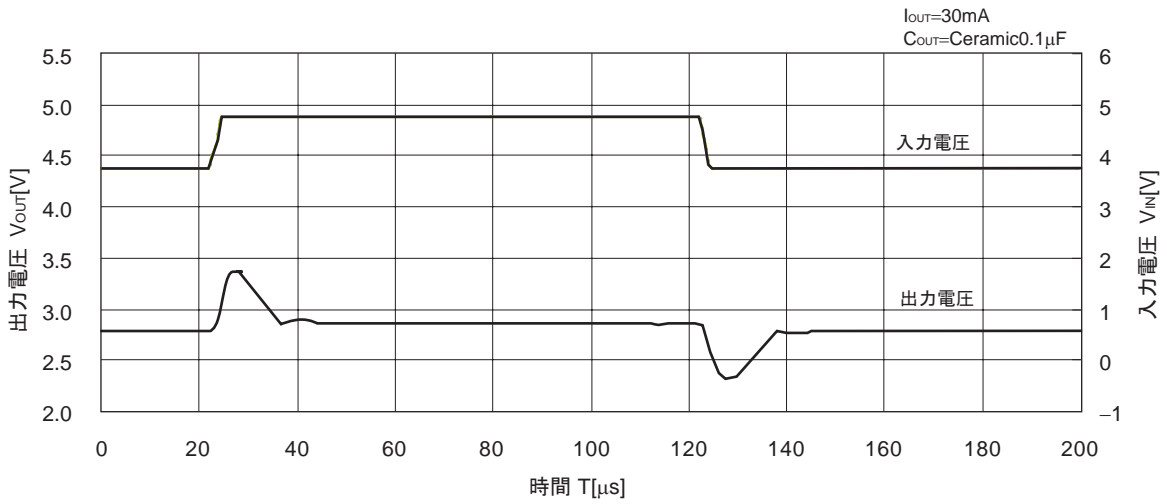


10) 入力過渡応答特性例($C_{IN}=none, tr=tf=5\mu s$)

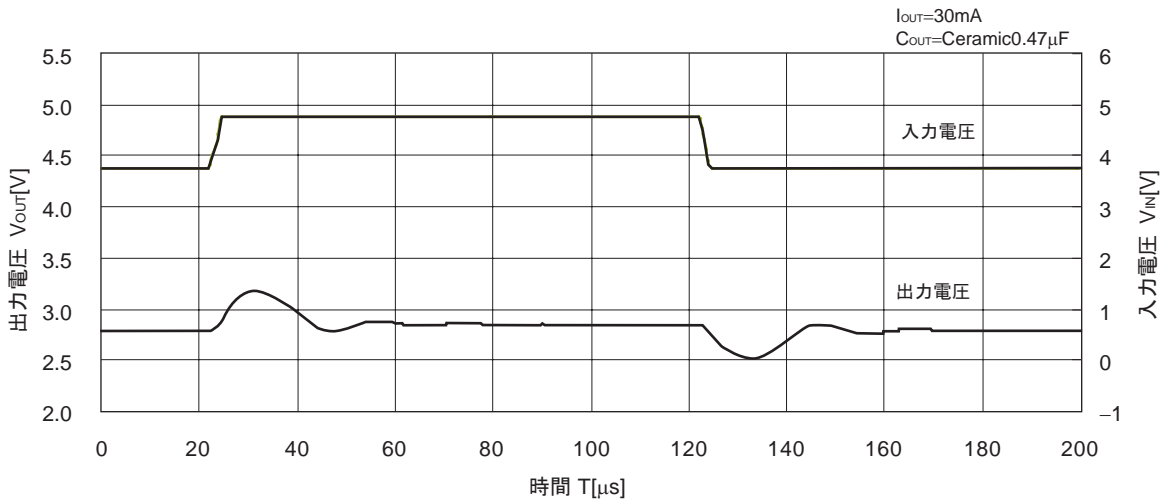
R1180x281x



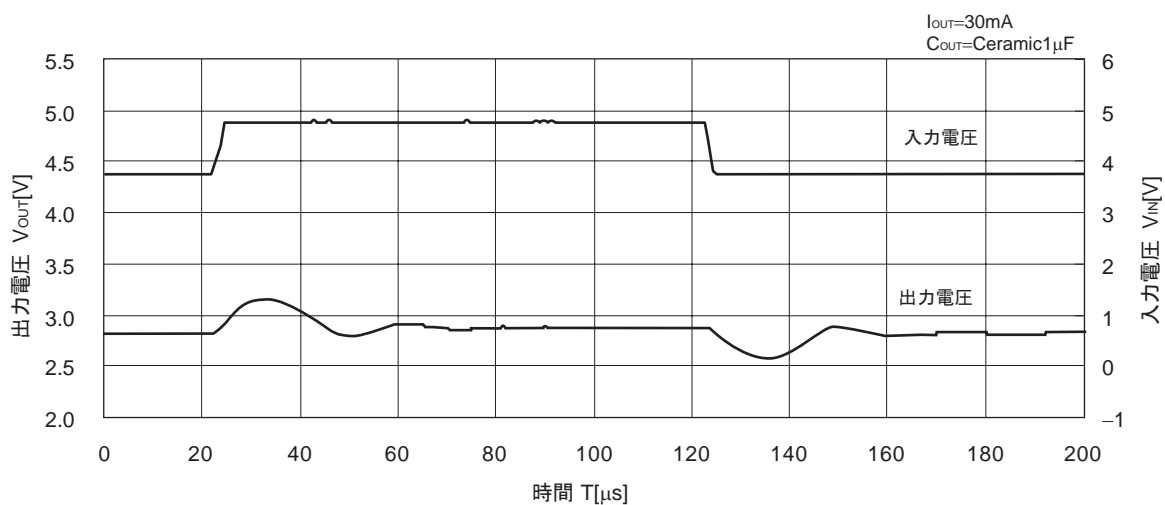
R1180x281x



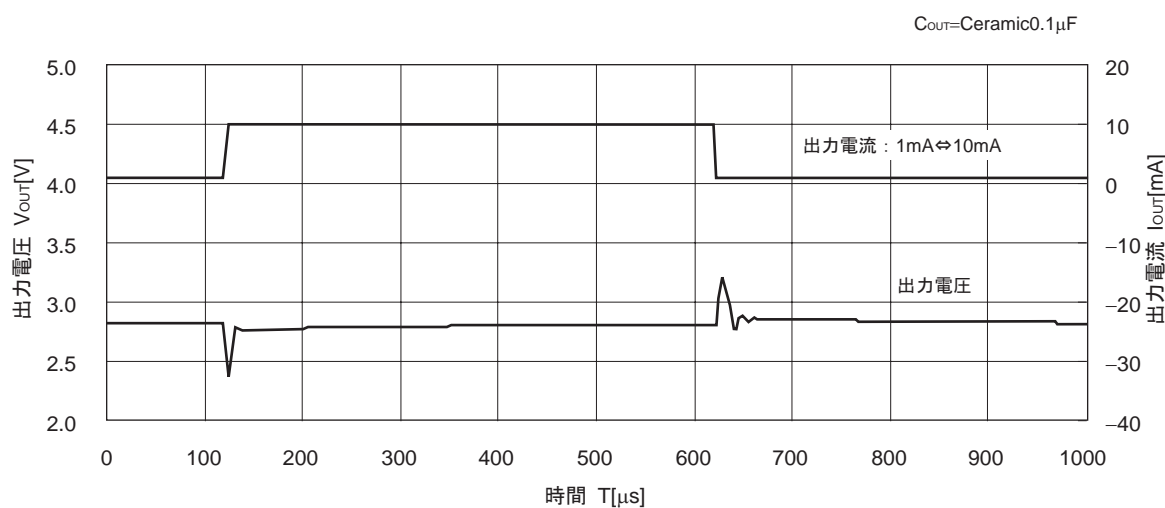
R1180x281x



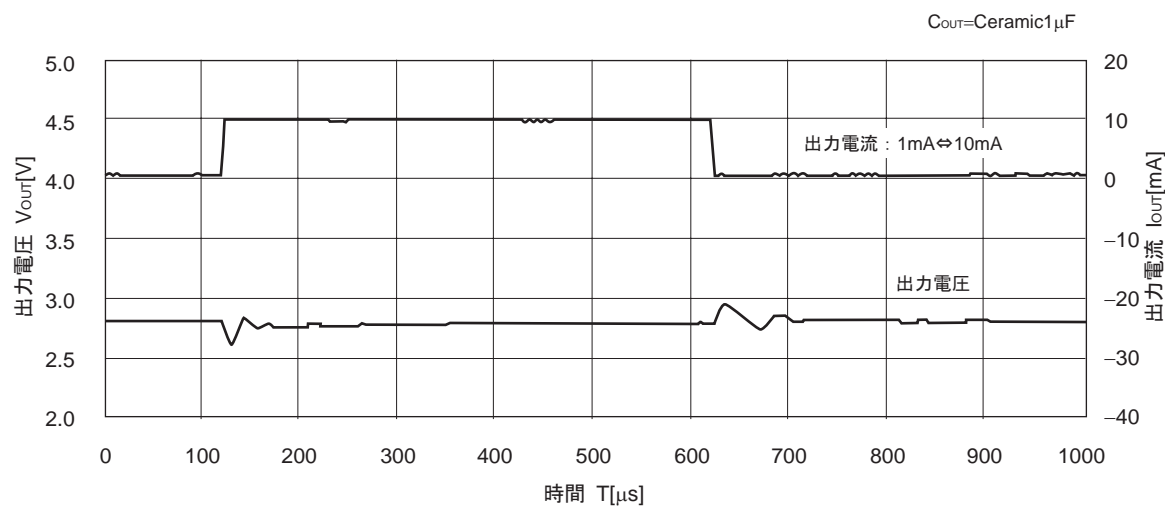
R1180x281x

11) 出力負荷過渡応答特性例 ($t_r=t_f=0.5\mu s$ $V_{IN}=3.8V$)

R1180x281x

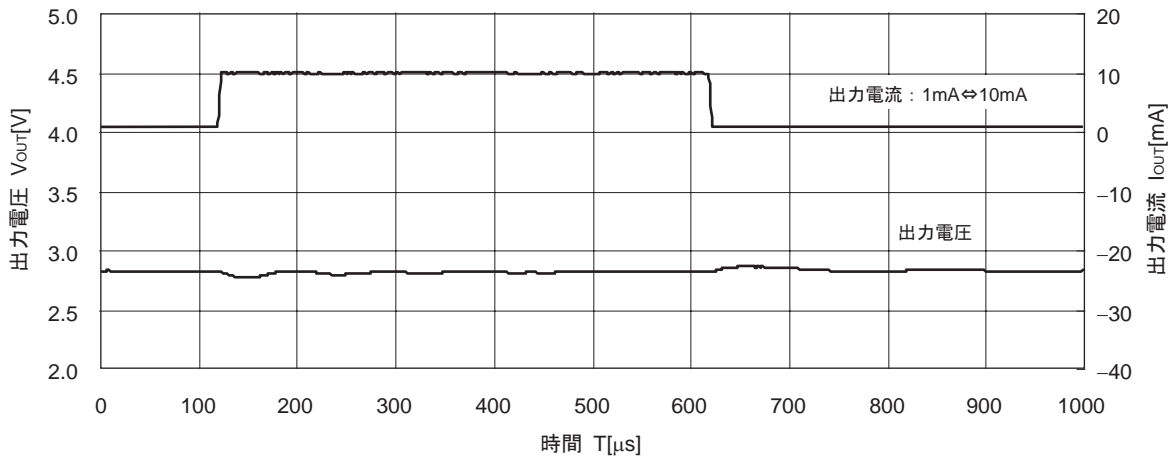


R1180x281x



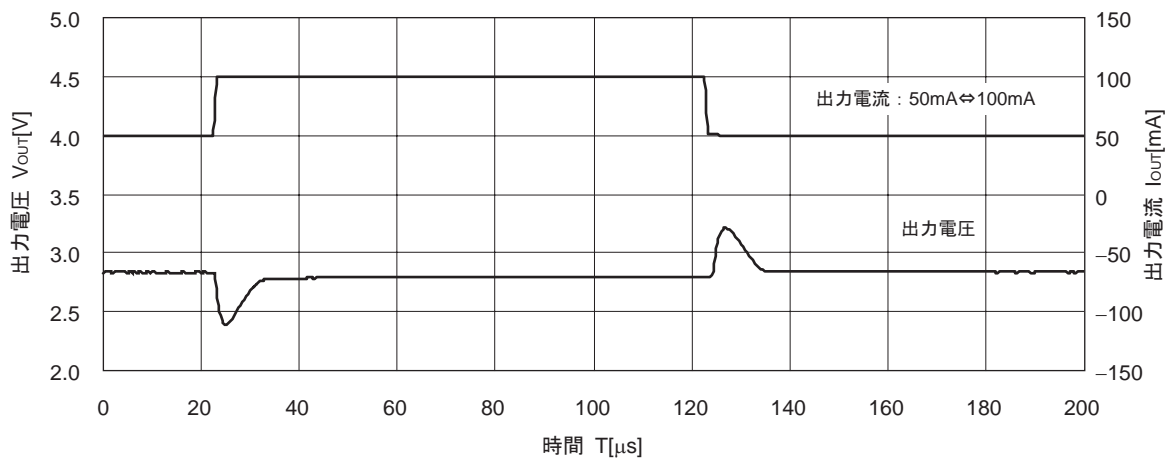
R1180x281x

C_{OUT}=Ceramic10 μ F



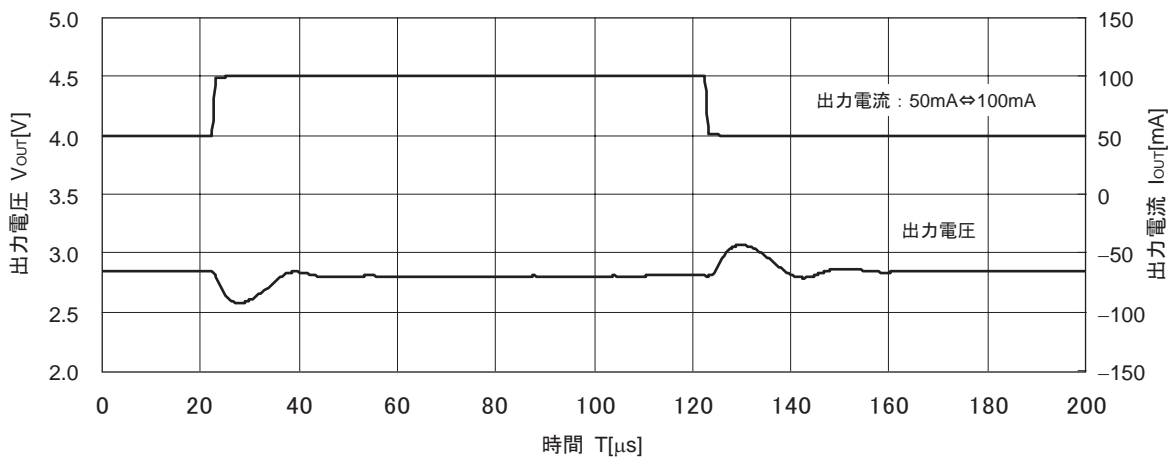
R1180x281x

C_{OUT}=Ceramic0.1 μ F



R1180x281x

C_{OUT}=Ceramic0.47 μ F

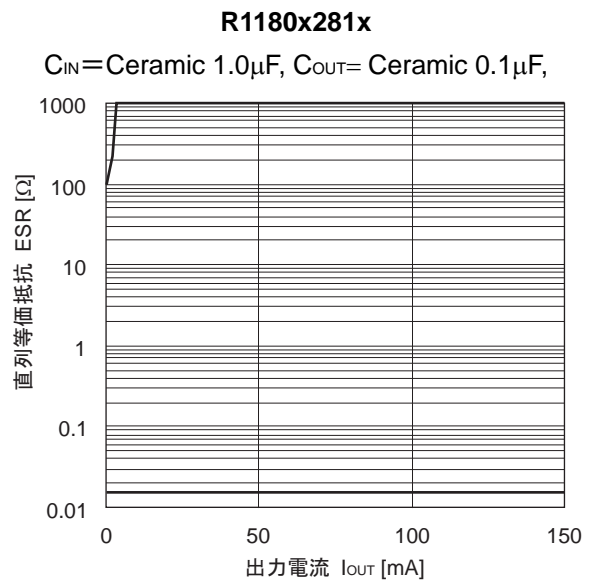
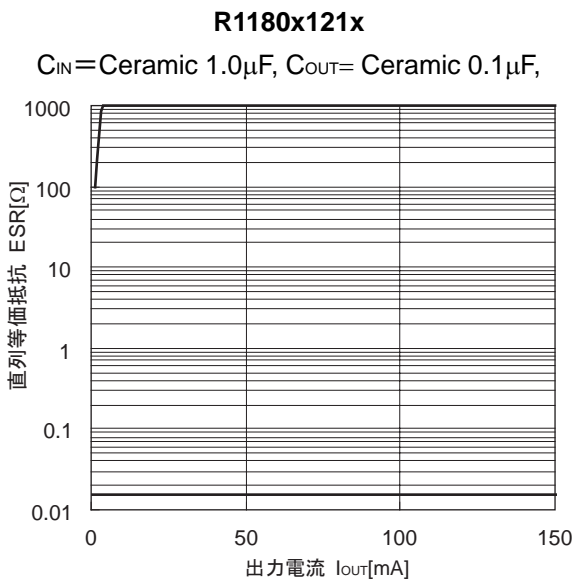


■ 直列等価抵抗対出力電流特性例

出力電流と出力コンデンサのもつ直列等価抵抗において安定領域を保つ境界線を上記に示しています。
 安定領域の条件として、出力ノイズのレベルが、平均40 μ V (Avg.) 未満になるところを境界と決めました。

<測定条件>

- (1) $V_{IN}=V_{OUT}+1V$
- (2) 周波数帯域: 10Hz~2MHz (BW=30Hz)
- (3) 周囲温度: -40°C~85°C





本ドキュメント掲載の技術情報及び半導体のご使用につきましては以下の点にご注意ください。

1. 本ドキュメントに記載しております製品及び製品仕様は、改良などのため、予告なく変更することがあります。又、製造を中止する場合がありますので、ご採用にあたりましては当社又は販売店に最新の情報をお問合せください。
2. 文書による当社の承諾なしで、本ドキュメントの一部、又は全部をいかなる形でも転載又は複製されることは、堅くお断り申し上げます。
3. 本ドキュメントに記載しております製品及び技術情報のうち、「外国為替及び外国貿易管理法」に該当するものを輸出される場合、又は国外に持ち出される場合は、同法に基づき日本国政府の輸出許可が必要です。
4. 本ドキュメントに記載しております製品及び技術情報は、製品を理解していただくためのものであり、その使用に関して当社及び第三者の知的財産権その他の権利に対する保証、又は実施権の許諾を意味するものではありません。
5. 本ドキュメントに記載しております製品は、標準用途として一般的電子機器(事務機、通信機器、計測機器、家電製品、ゲーム機など)に使用されることを意図して設計されております。故障や誤動作が人命を脅かしたり、人体に危害を及ぼす恐れのある特別な品質、信頼性が要求される装置(航空宇宙機器、原子力制御システム、交通機器、輸送機器、燃焼機器、各種安全装置、生命維持装置等)に使用される際には、必ず事前に当社にご相談ください。
6. 当社は品質、信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生します。故障の結果として人身事故、火災事故、社会的な損害等を生じさせない冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等安全設計に十分ご注意ください。誤った使用又は不適切な使用に起因するいかなる損害等についても、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。
7. 本ドキュメントに記載しております製品は、耐放射線設計はなされてございません。
8. X線照射により製品の機能・特性に影響を及ぼす場合があるため、評価段階で機能・特性を確認の上でご利用ください。
9. WLCSPパッケージの製品は、遮光状態でご利用ください。光照射環境下(動作、保管中含む)では、機能・特性に影響を及ぼす場合があるためご注意ください。
10. パッケージ捺印は、画像認識装置の仕様によって文字認識に差が生じることがあります。画像認識装置にて文字認識をする場合は、事前に弊社販売店または弊社営業担当者までお問い合わせください。
11. 本ドキュメント記載製品に関する詳細についてのお問合せ、その他お気付きの点がございましたら当社又は販売店までご照会ください。



当社は地球環境保全の観点から環境負荷物質の低減に取り組んでいます。

2006年4月1日以降、弊社はRoHS指令に適合した製品を提供しています。また、2012年4月1日以降は、ハロゲンフリー製品を提供しています。

RICOH リコー電子デバイス株式会社

弊社デバイスに関する詳しい内容をお知りになりたい方は下記へアクセスしてください。

<http://www.e-devices.ricoh.co.jp/>

本ドキュメント掲載製品に関するお問い合わせは下記宛までお願いします。

- 東日本地区 〒140-8655 東京都品川区東品川3-32-3
03(5479)2854 (直) FAX 03(5479)0502
- 西日本地区 〒563-8501 大阪府池田市姫室町13-1
072(748)6262 (直) FAX 072(753)2120

●お問い合わせ・ご用命は・・・